



詳細マップ 水舟の里

須原宿

須原宿は木曽谷の中で古くから栄えた歴史ある土地にあり、昔から清水が湧き、今も丸太をくり抜いて作った「水舟」が随所に置かれています。

のんびりと格子戸の町並みを歩いてみませんか。



水舟	中山道
駐車場	駅
トイレ	ガソリンスタンド
飲食店	スーパー・コンビニ
桜の名所	紅葉の名所

お問合せ先
大桑村観光協会 TEL:0264-55-4566

※写真・イラストは全てイメージです

水舟の里 須原宿

宿場の創設は、天文・弘治の頃といわれ、宿駅として制定されたのは慶長六年(1601年)である。その中でも須原宿は、中山道六十九次の中で最も新しい年代に建築されたもので、宿場町の特色をよく現わしているといわれている。

木曽川の河岸段丘上に設けられた須原宿は、町の真ん中に往還である本通りが一本通じ、これに沿って町並みが形成され、いわゆる鉄砲町の形態をとっている。

京方の入口には城郭建築に模して枡形が設けられ、道が鍵型に折り曲げられ急坂になっている。このような急な坂は江戸方の入口にもつけられヤギ坂といわれた。

町の両側には抜け道として利用された裏道が通じ、往還とこの裏道をつなぐ小路が適宜各所に置かれている。

また、町の中央往還沿いに火災予防・馬の飲用水・その他の使い水として利用された用水路が通じ、これとは別に、往還端には上水である水場が五ヶ所にほぼ等分に分散して設置されていた。



水舟について

昔は宿の十数軒単位で井戸水を使った水場があったが、上下水道の普及により無くなってしまった。地区の住民らで昭和60年に町並保存の一環として、サワラを使い水場「水舟」を製作した。

MAP

1 定勝寺(じょうしょうじ) (山号浄戒山 臨済宗妙心寺派に属する禅寺)

寺伝によると、嘉慶年間(1387~1389)に木曾氏十一代親豊公が創建した。文禄の洪水後に当時木曾を領していた豊臣家の木曾代官犬山城主石川光吉が慶長三年(1598年)木曾義在公の館跡に再建したといわれている。定勝寺の建築は桃山風の豪壮な建築様式の風をとどめることから、『山門』、『本堂』、『庫裏(くり)』の三建築が昭和27年に国の重要文化財に指定された。庫裏は昭和37年に大修理を行っている。



山門



庫裏外観



庫裏内

山門

雨落とし石をめぐらし、自然石の上に立っていて本柱は円柱、支柱は角柱面取りで、礎盤がはいっている。臺(かえる)股は表が唐獅子、裏が牡丹になっている。

本堂

入母屋造り、平入り六間取り方丈で幅広い板敷はうぐい張りになっており、柱はすべて大面取りである。正面の棧唐戸、渦巻き彫刻のある海老紅梁も見事なものである。

庫裏(くり)

入口を入ったところは、土間と広い板の間で、大きな炉が切っており上の梁から自在鍵が下がっている。天井をはずし屋根裏のままだが、梁組は堂々たるものである。

- 文化財拝観料 大人:300円 (団体割引30名以上大人:250円)
- 時 間 9:00~16:00
- 電 話 番 号 0264-55-3031

MAP

2 枡形(ますがた) 鍵屋の坂(鍵屋の紋が揚がる蔵の横)

枡形は宿場の京方に城郭建築を模して設けられ、幕府に反乱を起こした敵を防ぐために造られたものである。道路を鍵型に直角に折り曲げ、急坂で攻めにくくしている。「鍵屋の坂」とも呼ばれる。本来の街道の姿を今に伝える通りである。須原宿の枡形は形態がよく保存されており評価が高い。



MAP

3 清水医院跡地

清水医院は明治30年に建てられ、ひのきによる木造二階建、こけら葺屋根の土蔵造りで和洋折衷の近代的な建物であった。院長の清水半次郎は、明治元年(1868)須原に生まれ、上京し医学を修めた後、須原に戻り開業した。島崎藤村の短編小説「ある女の生涯」の舞台となった病院である。作品の冒頭部分「蜂谷」という評判の好い田舎医院...」が院長の清水半次郎である。この建物は、昭和47年(1972)、愛知県犬山市「明治村」に明治の医院建築として移転復元されている。



現在の須原宿 清水医院跡地



愛知県「博物館 明治村」に移築された清水医院

宿場ミニ知識

MAP

4 一里塚 主要な街道に1里(約3,927キロ)ごとに築かれた塚。榎(えのき)・松などが植えられ、旅人のための里程標となった。

MAP

5 高札場 幕府や藩からの御状目、お触れなどは必ず制札として一定の場所に掲示され、民衆に周知した。この場所を「御判形(ごはんぎょう)」と呼んだ。今日も「はんぎょう」という屋号が残っているところがある。

MAP

6 本陣 本陣とは江戸時代に参勤交代の大名や幕府の役人、勅使が宿泊・休憩した公式の施設をいう。

須原宿のお土産

桜の花漬け 7

大和屋

TEL: 0264-55-2918



『桜の花漬け』は江戸桜(ぼたん桜)を開花期に摘みとり塩漬けにしたもの。江戸時代の末頃から売りに出されたもので、須原宿の名物である。幸田露伴の小説「風流仏」にも出ている。現在も須原駅前「大和屋」で作り続けられている。

仙酒(そまざけ) 6

西尾酒造(脇本陣跡)

TEL: 0264-55-3002

FAX: 0264-55-3412



清酒「木曾のかけはし」「どぶろく風味 仙酒」醸造元。木曾氏の重臣を先祖とし、江戸時代には木曾・須原宿の庄屋・問屋・脇本陣を務め、その傍ら、酒造業を営み、中山道の歴史と共に歩んだ現存する木曾谷最古の酒蔵。人気の「仙酒」は発酵した辛口で昔ながらの素朴な味わいの「どぶろく風味」のにごり酒。

ますのうの花漬

田澤養鰯場

TEL: 0264-55-3058



虹鱈の切り身を「おから(うの花)」、「卵」、「酢」、であえた大桑村の地場特産品。保存料・着色料は一切使用しておらず、素材の味わいが活かした手作りの逸品である。お酒の肴はもちろん、ちらし寿司や押し寿司などにも使用できる。

お問合せ先

大桑村役場 TEL:0264-55-3080 FAX:0264-55-4134
大桑村観光協会 TEL:0264-55-4566
<http://www.vill.ookuwa.nagano.jp/kankou/>

※写真・イラストは全てイメージです